

年間授業計画

保谷 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～8組

教科担当：（1組：田中）（2組：西尾）（3組：小林）（4組：西尾）（5組：小林）（6組：田中）（7組：小林）（8組：田中）

使用教科書：（第一学習社『標準言語文化』）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解して適切に使う。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉を通じて積極的に他者と関わり、思いや考えを深め、言葉のもつ価値への認識を深める。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
言葉の特性や使い方、語や文意に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化に関する知識を習得し、様々な場面で適切に活用することができる。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。また、異なる時代に成立した作品を読み比べ、それらを比較して論じたり批評することができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		話	聞	読					
1 学 期	単元：古典入門 【知識及び技能】 ①古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ②文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする。 定期考査	教材：『兎のそら寝』（宇治拾遺物語） 指導事項 ・用言の活用を学ぶ。 ・内容、構成、展開をとらえる。 一人1台端末の活用 等 ・ロイロノートの提出機能を活用しリフレクションを行う。			○				12
	単元：受け継がれる古文 【知識及び技能】 ①文章の意味は文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 定期考査	教材：『養生門』（芥川龍之介）『今昔物語』 指導事項 ・内容、構成、展開をとらえ、内容を解釈する。 ・解釈を深め、自分の考えをもつ。 表現の効果を理解する。 一人1台端末の活用 等 ・ロイロノートの共有ノート機能を活用し解釈の交流を行う。			○				13
	単元：和歌による心の交流 【知識及び技能】 ①古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ②作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする。 定期考査	教材：『閑井閑』（伊勢物語） 指導事項 ・内容、構成、展開をとらえる。 ・内容を解釈する。 ・文章を評価し、解釈を深める。 ・自分の考えをもつ。 ・作品の背景を知る。 一人1台端末の活用 等 ・ロイロノートの共有ノート機能を活用し作品の背景について調べたことの共有を行う。			○				10
	単元：旅のなかで詠まれる句 【知識及び技能】 ①古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ②作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする。 定期考査	教材：『奥の細道』（松尾芭蕉） 指導事項 ・内容、構成、展開をとらえる。 ・内容を解釈する。 ・文章を評価し、解釈を深める。 ・自分の考えをもつ。 ・作品の背景を知る。 一人1台端末の活用 等 ・ロイロノートの共有ノート機能を活用し作品の背景について調べたことの共有を行う。			○				7
2 学 期	単元：日本とつながる思想 【知識及び技能】 ①漢文訓読の基礎的な語法や表現について理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする。 定期考査	教材：『論語』 指導事項 ・言葉の特性について理解する。 ・解釈を深め、自分の考えをもつ。 【思考力、判断力、表現力等】 ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする。 定期考査							7
	単元：現代にも生きる教え 【知識及び技能】 ①古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ②叙述をもとに解釈したり評価することを通して、考えを深めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする。 定期考査	教材：『徒然草』（兼好法師） 指導事項 ・内容、構成、展開をとらえる。 ・文章を評価し、解釈を深める。 一人1台端末の活用 等 ・ロイロノートの共有ノート機能を活用し解釈の交流を行う。							8
	単元：夢十夜（夏目漱石） 【知識及び技能】 ①文章の意味は文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする。 定期考査	教材：『夢十夜』（夏目漱石） 指導事項 ・内容、構成、展開をとらえ、内容を解釈する。 ・解釈を深め、自分の考えをもつ。 表現の効果を理解する。 一人1台端末の活用 等 ・ロイロノートの共有ノート機能を活用し解釈の交流を行う。							8
	単元：夢十夜（夏目漱石） 【知識及び技能】 ①文章の意味は文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする。 定期考査	教材：『夢十夜』（夏目漱石） 指導事項 ・内容、構成、展開をとらえ、内容を解釈する。 ・解釈を深め、自分の考えをもつ。 表現の効果を理解する。 一人1台端末の活用 等 ・ロイロノートの共有ノート機能を活用し解釈の交流を行う。							8
3 学 期	単元：夢十夜（夏目漱石） 【知識及び技能】 ①文章の意味は文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする。 定期考査	教材：『夢十夜』（夏目漱石） 指導事項 ・内容、構成、展開をとらえ、内容を解釈する。 ・解釈を深め、自分の考えをもつ。 表現の効果を理解する。 一人1台端末の活用 等 ・ロイロノートの共有ノート機能を活用し解釈の交流を行う。							1
	単元：夢十夜（夏目漱石） 【知識及び技能】 ①文章の意味は文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする。 定期考査	教材：『夢十夜』（夏目漱石） 指導事項 ・内容、構成、展開をとらえ、内容を解釈する。 ・解釈を深め、自分の考えをもつ。 表現の効果を理解する。 一人1台端末の活用 等 ・ロイロノートの共有ノート機能を活用し解釈の交流を行う。							合計 70

年間授業計画

保谷 高等学校 令和7年度(1学年用) 教科 地理歴史 科目 地理総合

教科: 地理歴史 科目: 地理総合 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 1 学年 1 組～ 8 組
教科担当者: (1組: 小野寺) (2組: 菅川) (3組: 菅川) (4組: 小野寺) (5組: 小栗) (6組: 小栗)
(7組: 菅川) (8組: 菅川)

使用教科書: (高等学校 新地理総合(帝國書院) 、新詳地理資料COMPLETE2025 (帝國書院) 、コンパクト地理総合地図 (二宮書店))

教科: 地理歴史 の目標:

【知識及び技能】日本や世界の地域的特色や歴史の展開について理解するとともに、地図や統計、史料を読み取る力

【思考力、判断力、表現力等】事象の意味や特色、相互の関連を、多面的、多角的に考察したり、課題解決を構想したりする力

【学びに向かう力、人間性等】持続可能な社会の実現に向けて、自ら主体的に授業や社会に関わろうとする力

地理総合		の目標:							
		【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】					
地理的事象に関して、GISや統計資料から情報を取りまとめたり、調査内容などを適切かつ効果的にまとめる。		位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存作用、地域などに着目して、地理的な課題に向けて、構想したり、考察したりしている。	持続可能な社会に関わり、主体的に探究し、自分自身の意見を持つとともに、グループ内で意見形成をしようとしている。						
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 点 率		
1 学 期	単元「地図と地理情報システム」 【知識及び技能】 紙の地図を認識したり、レイヤーなどを駆使したGISの概念を理解する。GISなどを用いて、情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 地図情報や統計資料を用いた効果的な伝え方について、多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 地図表現の違いや身近なWebGISなどについて自ら操作し探究的に学ぶことができる態度を養う。	【指導内容】 1) 地球上の位置と時差 2) 地図の役割と種類 【デジタル端末の活用と教材の関係】 教科書や資料集などの活用に加えて、以下のコンテンツを活用する。 ・地理院地図 ・Google Earth ・今昔マップ 地図操作や概念に関するコンテンツ ・地理院地図 ・Google Earth ・今昔マップ 地図作成に関するコンテンツ ・地理院地図 ・e-Stat ・JSTAT MAP ・RENAS 課題の提出や対論に関するツール ・ロイノート 以上のコンテンツを、生徒が日々の授業に対して繰り返しや発展的に探究的な学びを支援できるものとして活用する。	【知識・技能】 紙の地図を認識したり、レイヤーなどを駆使したGISの概念を理解している。GISなどを用いて、情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 地図情報や統計資料を用いた効果的な伝え方について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地図表現の違いや身近なWebGISなどについて自ら操作し探究的に学ぶことができる態度がある。				8		
	単元「生活文化の多様性と国際理解」 【知識及び技能】 世界の人の特色ある生活文化が地理的境域から影響を受けたり、影響を与えたりしていることに加え、そういった文化には共通性や地域性があることについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地図情報や統計資料を活用し、グローバル化にもたらす移民や経済などの現代的課題に対して、多面的・多角的に考察し、議論する。世界の生活文化について地理的境域の観点から考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 紙の地図やGISを自ら操作し、グローバル化にもたらす移民や経済などの現代的課題に関して主体的に学びを深め、合意形成に至る。世界の生活文化の多様性と国際理解について主体的に学びを深め、追究する態度を養う。	【指導内容】 1) 国家と領域 2) グローバル化する世界の生活文化の多様性 4) 世界の地形と人々の生活 【デジタル端末の活用と教材の関係】 教科書や資料集などの活用に加えて、以下のコンテンツを活用する。 ・地理院地図 ・Google Earth ・e-Stat ・JSTAT MAP ・RENAS 課題の提出や対論に関するツール ・ロイノート 以上のコンテンツを、生徒が日々の授業に対して繰り返しや発展的に探究的な学びを支援できるものとして活用する。	【知識・技能】 世界の人の特色ある生活文化が地理的境域から影響を受けたり、影響を与えたりしていることに加え、そういった文化には共通性や地域性があることについて理解している。 【思考・判断・表現】 地図情報や統計資料を用いた効果的な伝え方について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。グローバル化にもたらす移民や経済などの現代的課題に対して、多面的・多角的に考察し、議論することができる。世界の生活文化について地理的境域の観点から考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 地図表現の違いや身近なWebGISなどについて自ら操作し探究的に学ぶことができる態度がある。グローバル化にもたらす移民や経済などの現代的課題に関して主体的に学びを深め、合意形成に至る。世界の生活文化の多様性と国際理解について、主体的かつ対話的に学びを深め、追究している。				12		
	【定期考査】 第1章 地図でとらえる現代世界及び第2章 第1節 世界の多様な環境と人々の生活に関するテストとし基本的な知識・技能と論理的かつ効果的に作図を行う思考力や表現力を図る。		【知識・技能】 授業中に取った基本的な知識・技能について理解している。 【思考・判断・表現】 発展的で思考力を問う問題に対しても、統計資料や地図から適切に判断し表現できている。				1		
	単元「生活文化の多様性と国際理解」 【知識及び技能】 世界の人の特色ある生活文化が地理的境域から影響を受けたり、影響を与えたりしていることに加え、そういった文化には共通性や地域性があることについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 世界の生活文化について、地理的境域（自然環境、宗教、歴史、産業）の観点からその成り立ちや共通性、地域性について考察することができる。生活文化を構成する要素が多様な観点から成り立つことをコンセプトマップなどで表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生活文化の多様性と国際理解について、持続可能な社会（多様な社会の形成を含む）を目指して、主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。	【指導内容】 1) 自然環境と生活文化 2) 宗教と生活文化 3) 歴史と生活文化 4) 産業と生活文化 【デジタル端末の活用と教材の関係】 教科書や資料集などの活用に加えて、以下のコンテンツを活用する。 ・地理院地図 ・Google Earth 教材として使用するコンテンツ ・地理院地図 課題の提出や対論に関するツール ・ロイノート 図書館にある資料やインターネット上の資料を生徒が主体的に活用する場面を設ける。	【知識及び技能】 世界の人の特色ある生活文化が地理的境域から影響を受けたり、影響を与えたりしていることに加え、そういった文化には共通性や地域性があることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 世界の生活文化について、地理的境域（自然環境、宗教、歴史、産業）の観点からその成り立ちや共通性、地域性について考察している。生活文化を構成する要素が多様な観点から成り立つことをコンセプトマップなどで表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 生活文化の多様性と国際理解について、持続可能な社会（多様な社会の形成を含む）を目指して、主体的かつ対話的に学びを深め、追究している。				13		
2 学 期	【定期考査】 第2章 第1節 生活文化の多様性と国際理解に関するテストとし基本的な知識・技能と論理的かつ効果的に作図を行う思考力や表現力を図る。		【知識・技能】 授業中に取った基本的な知識・技能について理解している。 【思考・判断・表現】 発展的で思考力を問う問題に対しても、統計資料や地図から適切に判断し表現できている。				1		
	単元「地球的課題と国際協力」 【知識及び技能】 世界各地で見られる地球的課題（環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題および居住・都市問題）について、課題の概要や複雑性について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 世界各地で見られる地球的課題（環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題および居住・都市問題）について、地域の結び付きや問題相互の関連性を考察し、その課題解決に向けた複雑性をコンセプトマップなどで表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 世界各地で見られる地球的課題（環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題および居住・都市問題）について、持続可能な社会（多様な社会の形成を含む）を目指して、主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。	【指導内容】 1) 環境問題と経済 2) 人口問題と都市・居住問題 3) エネルギーと経済 【デジタル端末の活用と教材の関係】 教科書や資料集などの活用に加えて、以下のコンテンツを活用する。 教科書や資料集などの活用に加えて、以下のコンテンツを活用する。 ・地理院地図 ・Google Earth 課題の提出や対論に関するツール ・ロイノート ロイノート上にあるシンキングツールやロイノートの特性を活用して、課題の相互関係についてコンセプトマップでまとめたり、発表したりする時間を設ける。	【知識及び技能】 世界各地で見られる地球的課題（環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題および居住・都市問題）について、課題の概要や複雑性について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 世界各地で見られる地球的課題（環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題および居住・都市問題）について、地域の結び付きや問題相互の関連性を考察し、その課題解決に向けた複雑性をコンセプトマップなどで表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 世界各地で見られる地球的課題（環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題および居住・都市問題）について、持続可能な社会（多様な社会の形成を含む）を目指して、主体的かつ対話的に学びを深め、追究している。				16		
	【定期考査】 第2章 国際理解と国際協力に関するテストとし基本的な知識・技能と論理的かつ効果的に作図を行う思考力や表現力を図る。		【知識・技能】 授業中に取った基本的な知識・技能について理解している。 【思考・判断・表現】 発展的で思考力を問う問題に対しても、統計資料や地図から適切に判断し表現できている。				1		
	単元「地球的課題と国際協力」 【知識及び技能】 日本での地震や津波、風水害について世界の状況を踏まえたグローバルな視点から理解する。特に、ローカルな視点については、ハザードマップなどを活用する。 【思考力、判断力、表現力等】 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件とのかかわりから考察する。また、今後の地域のあり方について伝えたり、表現したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な地域の課題や展望について、持続可能な社会（防災の視点を含む）を目指して、主体的かつ対話的に学びを深め、地域のあり方について合意形成させる。	【指導内容】 1) 環境問題と経済 2) 気象災害と自然災害 3) 防災と持続可能な地域 【デジタル端末の活用と教材の関係】 教科書や資料集などの活用に加えて、以下のコンテンツを活用する。 ・地理院地図 ・Google Earth ・今昔マップ 地図操作や概念に関するコンテンツ ・地理院地図 ・Google Earth ・今昔マップ 地図作成に関するコンテンツ ・地理院地図 ・e-Stat ・JSTAT MAP ・RENAS 課題の提出や対論に関するツール ・ロイノート 以上のコンテンツを、生徒が日々の授業に対して繰り返しや発展的に探究的な学びを支援できるものとして活用する。	【知識・技能】 日本での地震や津波、風水害について世界の状況を踏まえたグローバルな視点から理解している。特に、ローカルな視点については、ハザードマップなどを活用している。 【思考力、判断力、表現力等】 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件とのかかわりから考察する。また、今後の地域のあり方について伝えたり、表現したりできる。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な地域の課題や展望について、持続可能な社会（防災の視点を含む）を目指して、主体的かつ対話的に学びを深め、地域のあり方について合意形成させる。				17		
3 学 期	【定期考査】 第3章 持続可能な地域づくりと私たち及び年間取った内容に関するテストとし基本的な知識・技能と論理的かつ効果的に作図を行う思考力や表現力を図る。		【知識・技能】 授業中に取った基本的な知識・技能について理解している。 【思考・判断・表現】 発展的で思考力を問う問題に対しても、統計資料や地図から適切に判断し表現できている。				1		
									合計 70

保谷 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅰ

教科： 数学 科目： 数学Ⅰ

単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： （1組：谷藤）（2組：友利）（3組：谷藤）（4組：友利）（5組：谷藤）（6組：友利）（7組：谷藤）（8組：友利）

使用教科書： 高等学校 数学Ⅰ

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。

【思考力、判断力、表現力等】事象を数学的に考察する能力を培う。また問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

科目 数学Ⅰ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数式の書き方や変形、数式の計算などについて理解し、数式の活用や計算について積極的に考察し判断したりする能力を養う。図形の構成要素間の関係に留意し、図形の性質や計算について積極的に考察し判断したりする能力を養う。問題解決に際し、事象の数学的な表現について積極的に考察し判断したりする能力を養う。また問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え、数学的に解決しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時 数	
1 学 期	数と式 式を扱うための基本的な用語や計算方法について理解する。また、式を1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなど、目的に応じた式の見方ができるようにし、既に学習した計算方法と関連付けるなど、式を多面的に捉える力を培う。	数と式 多項式の加法と減法 多項式の乗法 因数分解 実数 根号を含む計算	【知識・技能】 単項式或多項式、同類項、次数など式に関する用語を理解し、加法や減法などの計算ができる。指数法則や分配法則を用いて計算ができる。公式を理解し、展開や因数分解ができる。共通因数をくり出し出て因数分解ができる。有理数が整数、有限小数、循環小数を理解し、分数を循環小数で、循環小数を分数で表すことができる。絶対値の意味を理解し、実数の絶対値を求めることができる。根号を含む式の加法、減法、乗法、除法の計算ができる。 【思考・判断・表現】 少し複雑な式の計算を工夫して行うことができる。式を1つの文字におき換えたり、積の組み合わせを工夫したりすることで、式の展開を簡略化することができる。実数の絶対値を用いて数直線上の距離を考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 単項式、多項式とその整理の仕方に関心を持ち、考察しようとする。式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、どの文字で整理するかなど、よりよい因数分解の方法について考察したりしようとする。		○	○	12	
	定期考査				○	○	1	
	集合と命題 中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ数と数の体系について理解を深め、実数が四則演算に関して閉じていることや、数直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解する。また、簡単な無理数の四則計算や分母の有理化ができるようにする。	命題と証明 命題と条件	【知識・技能】 必要条件、十分条件、同値を理解し、その判定ができる。条件の否定の意味を理解している。 【思考・判断・表現】 対偶を用いて命題を証明することができる。命題の真偽や必要条件、十分条件について、集合と関連付けて理解したり説明したりしようとする態度がある。 【主体的に学習に取り組む態度】 今まで学習してきた数の体系を、計算の可能性と関連付けてその包含関係などを整理し、考察しようとする。		○	○	8	
	2次関数 関数とそのグラフについて理解する。また、2次関数のグラフの特徴について、頂点の平行移動と関連付けて理解し、2次関数のグラフがかけけるようにする。	関数とグラフ	【知識・技能】 関数の定義を理解し、関数を式で表すことができる。関数のグラフの意味を理解している。放物線の軸、頂点などについて理解し、2次関数 $y=ax^2$ のグラフをかくことができる。 【思考・判断・表現】 放物線の平行移動と、頂点の移動に着目して考察できる。放物線の平行移動について、x軸方向、y軸方向などの用語を用いて表現できる。最大値・最小値を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 グラフの平行移動、対称移動の一般公式の意味を考察したり、それを活用してグラフの方程式を求めたりしようとする。最大値、最小値の条件から関数や定義域を自由に定め、それらから一般的な性質を導き出そうとする。		○	○	15	
定期考査					○	○	1	
2 学 期	2次関数 2次関数の最大値、最小値をグラフを用いて求められるようにし、それを様々な事象の考察に活用できるようにする。また、条件から2次関数を決定できるようにする。	2次関数のグラフ 2次関数の最大値・最小値 2次不等式	【知識・技能】 2次関数の最大値または最小値をもつことを理解し、求めることができる。2次関数の定義域が制限されている場合に最大値と最小値を求めることができる。与えられた条件から2次関数を決定することができる。 【思考・判断・表現】 2次関数の値の変化をグラフから考察することができる。具体的な事象の最大・最小の問題を、2次関数を用いて表現し、処理することができる。定義域が変化するときやグラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。 【主体的に取り組む態度】 日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。2次関数の決定条件に興味、関心を持ち、考察しようとする。		○	○	14	
	定期考査				○	○	1	
	2次方程式と2次不等式 2次不等式も2次関数のグラフとx軸の関係から考察し、2次不等式が解けるようにする。	2次不等式 2次関数のグラフとx軸の位置関係	【知識・技能】 2次方程式を、因数分解や解の公式を利用して解くことができる。2次関数のグラフとx軸の共有点の座標を求めることができる。 【思考・判断・表現】 2次方程式の解の公式と判別式との関係を理解し、解の判別に利用できる。解がない場合など特別な場合も含めて、2次関数のグラフを用いれば2次不等式を解くことができる。2次関数のグラフとx軸の共有点の位置について、グラフを利用して解決できる。 【主体的に取り組む態度】 2次方程式の解を考察するのに、2次関数のグラフを積極的に利用しようとする。1次不等式と1次関数の関係をもとに、2次不等式と2次関数の関係を考察しようとする。		○	○	14	
	定期考査					○	○	1
3 学 期	【三角比】 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量を行うなど、三角比を事象の考察に活用できるようにする。正弦定理、余弦定理について理解し、それらを適切に用いて三角形の辺や角を求められるようにし、あわせて三角形の面積も求められるようにする。また、これらのことを空間図形を含む様々な事象に活用できるようにする。	三角比 三角比の相互関係 正弦定理・余弦定理	【知識・技能】 三角比の定義を理解し、直角三角形において正弦・余弦・正接を求めることができる。三角比の相互関係を利用して、三角比の1つの値がわかっているとき、残りの2つの値を求めることができる。 $90^\circ - \theta$ の三角比の公式を利用してある角の三角比を別の角の三角比で表すことができる。鈍角の三角比を鋭角の三角比で表すことができる。 【思考・判断・表現】 具体的な事象における長さや角度について、三角比を用いて捉え、三角比の値からそれらを求めることができる。3つある三角比の相互関係のそれぞれをどのような場面で用いるかを判断することができる。角の値によって三角比の値がどのように増減するか、適切に表現できる。 【主体的に取り組む態度】 三角比の値が三角形の大きさによらず、角の大きさだけで定まることに関心をもつことができる。三角比の相互関係を、三角比の定義や平方の定理などから導出しようとする。正弦定理、余弦定理を証明しようとする。		○	○	26	
	【データの分析】 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、日常の生活について、事象などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。	データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差 2つの定数の解法の関係 仮説検定の考え方	【知識・技能】 平均値、中央値、最頻値、範囲、四分位範囲、相関係数などの定義や意味を理解し、それらを用いることができる。 【思考・判断・表現】 データの分析の仕方によって、適切な代表値を求める必要があることを理解している。データの散らばり具合をどのように数値化するかを考察することができる。変数の変換によって平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができる。データの相関を散布図や相関係数を利用して説明できる。 【主体的に取り組む態度】 データを整理して全体の傾向を考察しようとする。身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。データの散らばり具合をどのように数値化するかを考察しようとする。変数の変換によって平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察しようとする。相関の強弱を数値化する方法を考察しようとする。		○	○	11	
	定期考査					○	○	105
	定期考査					○	○	1

【知識及び技能】数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を培う。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関わりについて認識を深め、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	記 時 数
1 学 期	1章 場合の数と確率 場合の数を求めるための基本的な考え方について理解する。また、様々な場合の数を求めるための公式について、それを適用するだけにとどまらず、公式が導出される過程についても理解し、様々な場合の数に活用できるような力を培う。	①集合の要素の個数 ・教科書、問題集、端末利用 ・提出物、小テスト	【知識・技能】場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数理的に考察する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
	1章 場合の数と確率 場合の数を求めるための基本的な考え方について理解する。また、様々な場合の数を求めるための公式について、それを適用するだけにとどまらず、公式が導出される過程についても理解し、様々な場合の数に活用できるような力を培う。	②場合の数 ③順列 ④組合せ ⑤事象と確率 ・教科書、問題集、端末利用 ・提出物、小テスト	【知識・技能】場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数理的に考察する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	○	○	○	10
2 学 期	定期考査			○	○	○	1
	1章 場合の数と確率 確率の意味とその表し方や性質について理解し、場合の数の求め方を活用するなどして、様々な事象の確率を求められるようにする。また、試行の独立について理解を深め、反復試行の確率や条件付き確率を求められるようにする。さらに、期待値について理解し、それを求められるようにするとともに、様々な判断に用いるような姿勢を養う。	⑥確率の基本性質 ⑦独立な試行と確率 ⑧条件付き確率 ⑨期待値 ・教科書、問題集、端末利用 ・提出物、小テスト	【知識・技能】場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数理的に考察する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	○	○	○	16
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	2章 図形の性質 平面図形の様々な性質について、その証明を含めて理解し、それを様々な事象の考察や、新たな性質の証明などに活用できるような力を培う。	①三角形の角の二等分線と辺の比 ②三角形の外心・内心・重心 ③チェバの定理・メネラウスの定理 ・教科書、問題集、端末利用 ・提出物、小テスト	【知識・技能】図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数理的に考察する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
	3章 図形の性質 平面図形の様々な性質について、その証明を含めて理解し、それを様々な事象の考察や、新たな性質の証明などに活用できるような力を培う。 様々な空間図形の性質について、平面図形との違いにも注目しながら理解し、様々な事象の考察に活用できるようにする。	④円に内接する四角形 ⑤円と直線 ⑥2つの円 ⑦作図 ⑧直線と平面 ⑨多面体 ・教科書、問題集、端末利用 ・提出物、小テスト	【知識・技能】図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、数理的に考察する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	○	○	○	23
3 学 期	定期考査			○	○	○	1

都立保谷 高等学校 令和7年度（1 学年用）教科 理科 科目 生物基礎

教 科： 理科 科 目： 生物基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（ 1・5・6・8組： 関口 ） （ 2・3・4・7組： 佐藤 ）

使用教科書：（ 高等学校 生物基礎 数研出版 ）

使用教材：（ 新課程 リードα 生物基礎 数研出版 ）

単元の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

単元名：（ 生物の特徴 ）

単元の評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

実施予定： 4 月 2 週 ～ 5 月 3 週

	具体的な指導目標	指導項目・内容	知	思	態	評価の方法	実績(実施日)					
							組	組	組	組	組	組
第1時	(1) 全ての生物は共通の祖先をもつこと、生物は多様でありながら共通性をもっていることを知る。 (2) 生物の共通性は、共通の祖先から進化してきたことに由来することを理解し、生物の共通性について、系統樹を用いて表現することができる。 (3) 系統樹を用いて、共通の祖先から進化してきたことを説明できる。	生物の多様性と共通性	○	○		・「Quest」(p.21)について考えさせ、答えさせる。 ・「Quest」(p.22)について考えさせ、答えさせる。 ・「Quest」(p.23)について考えさせ、答えさせる。 ・「Quest」(p.24)について考えさせ、答えさせる。 ・「考えてみよう」(p.25)について考えさせ、答えさせる。						
第2時												
第3時												
第4時	(1) 細胞には原核細胞と真核細胞があることを知る。 (2) 原核細胞と真核細胞の構造の違いは、膜の発達状態の違いであることを説明できる。 (3) 原核細胞と真核細胞の大きさについて、概ねの範囲を数値で示すことができる。 (4) 全ての細胞の共通性を説明できる。 (5) 人間の生活に関係する原核生物の名称とはたらきを示すことができる。	細胞のつくり	○	○		観察 ワークシートの記述						
第5時												
第6時		顕微鏡を用いた観察	○	○								

合計

科目 音樂 I

单位数： 2 单位

教科担当者： 神山 耕平

教科 芸術

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】 互いの存在、表現を認め合い、高め合う力を育成する。

科目 音樂 I

の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	歌唱	校歌	○			○	【知識・技能】 きちんとした発声を意識しているか。 【思考・判断・表現】 曲想に合った音色で歌っているか。	○	○	○	6
	ボディーパーカッション	Plymouth Rock			○	○	【知識・技能】 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、及び他者との調和を意識して演奏する技術を身に付け、表している。 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想と手拍子や足踏み、音色や奏法との関わり、及び他者との調和を意識して演奏することに関心をもち、主体的・協働的に音楽の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
2 学 期	ギター 弾き語り	カントリーロード 日曜日よりの使者 夢の中へ			○		【知識・技能】 創意工夫を生かした楽器表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、楽器で表している。 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想と音色や奏法との関わりに関心をもち、主体的・協働的に音楽の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	9
	鑑賞	ハイスクールミュージカル				○	【知識・技能】 音楽の特徴と他の芸術との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 音楽の特徴と他の芸術との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4
3 学 期	合唱	あなたへ					【知識・技能】 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能、及び合唱の表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、合唱による表現の特徴、及び各パートや指揮者の役割に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	7 合計 34

保谷 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科		芸術		科目 美術 I	
教 科： 芸術		科 目： 美術 I		単位数：	2 単位
対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組					
教科担当者：	(1組：野田)	(2組：野田)	(3組：野田)	(4組：野田)	(5組：野田) (6組：野田)
	(7組：野田)	(8組：野田)			
使用教科書： (光村出版 美術 I)					

科目 美術Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞する

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元「身近なものを描こう」 【知識及び技能】 身近なものを描くことに興味をもち、身近なものを見つめ感じ取った特徴や、ものに対する自分の思いなどから主題を生成する 【思考力、判断力、表現力等】 主題と共に、形や色、用具の使い方	・幾何学形態石膏による基礎練習 ・具体的な用具の使用法 ・4B～2H鉛筆 ・八つ切りM画用紙 ・練りゴム ・カッターナイフ ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 デッサンの工程を理解している 形や色、質感に応じた使用画材や表現で描いている 【思考力、判断力、表現力】 身近なものを見つめ、そこから主題を生成し、自ら材料や用具の特性などについて考えている	○	○	○	16
	A 単元「風景を描こう」 【知識及び技能】 心惹かれる風景をあらわすことに興味をもち、風景から感じ取ったことや、自分の思いなどから主題を生成する 【思考力、判断力、表現力等】 光や陰影、奥行き表現などを工夫	・エスキースに重きを置き制作の見直しを立てる ・混色ブックなど用意し表現の幅を自ら広げられるようにする ・ワークシートなど多用し主題を見つけやすくなるようサポートする ・教材 アクリル絵具、F8キャンパス、	A 単元「風景を描こう」 【知識及び技能】 心惹かれる風景をあらわすことに興味をもち、風景から感じ取ったことや、自分の思いなどから主題を生成する 【思考力、判断力、表現力等】 光や陰影、奥行きの表現などを工夫して制作する	○	○	○	4
2 学 期	A 単元「風景を描こう」 【知識及び技能】 心惹かれる風景をあらわすことに興味をもち、風景から感じ取ったことや、自分の思いなどから主題を生成する 【思考力、判断力、表現力等】 光や陰影、奥行き表現などを工夫	・エスキースに重きを置き制作の見直しを立てる ・混色ブックなど用意し表現の幅を自ら広げられるようにする ・ワークシートなど多用し主題を見つけやすくなるようサポートする ・教材 アクリル絵具、F8キャンパス、	【知識・技能】 形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、光や陰影、奥行きなどの造形的な特徴などをもとに、風景や風景を描いた作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【思考・判断・表現】 心惹かれる風景を見つめ感じ取ったことや、	○	○	○	26
3 学 期	A 単元「作家調べ」 【知識及び技能】 美術作家関心をもち、その活動や創作過程から美術作家という生き方を知る。 【思考力、判断力、表現力等】 ICT機器を活用し、他者に向けて調べた内容及び自身で精査した情報を	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、量感や質感、動勢などの造形的な特徴などをもとに、生命感をあらわした身近な人や動物の彫刻を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【思考・判断・表現】 人や動物など見つめて感じ取った生命感など	○	○	○	14
							合計 60

